

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-85754

(P2000-85754A)

(43) 公開日 平成12年3月28日 (2000.3.28)

(51) Int.Cl.  
B 6 5 D 5/50

識別記号  
1 0 1

F I  
B 6 5 D 5/50

タームコード\* (参考)  
1 0 1 Z 3 E 0 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-258349

(22) 出願日 平成10年9月11日 (1998.9.11)

(71) 出願人 000238005

株式会社フジシール

大阪府大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号

(72) 発明者 橋本 忠

大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号 株式会社フジアルファ内

(72) 発明者 橋本 保雄

大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号 株式会社フジアルファ内

(74) 代理人 100074332

弁理士 藤本 昇 (外1名)

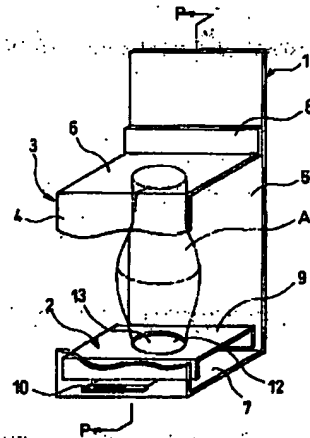
Fターム(参考) 3E060 AB01 BC04 CB02 CB03 CB16  
CC02 CC14 CC17 CC18 CC19  
CC52 DA22 EA20

(54) 【発明の名称】 包装ケース

(57) 【要約】

【課題】 収容部の開口部分から被包装物が抜け落ちることを防止することを課題とする。

【解決手段】 被包装物Aが収容可能な収容部3を備え、該収容部3の側方が開口してなる包装ケースにおいて、前記収容部3内には、被包装物Aを反対側の内面に押圧して保持すべく、クッション材2が設けられてなることを解決手段とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 被包装物(A)が収容可能な収容部

(3)を備え、該収容部(3)の側方が開口してなる包装ケースにおいて、前記収容部(3)内には、被包装物(A)を反対側の内面に押圧して保持すべく、クッション材(2)が設けられてなることを特徴とする包装ケース。

【請求項2】 前記クッション材(2)には、被包装物(A)と係合する係合部(12)が形成され、しかも、クッション材(2)が係合手段(10, 11)を介して収容部(3)に係合してなる請求項1記載の包装ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば化粧品等の商品を収容部に収容し展示するための包装ケースに関し、特に、プラスチックシート等のシートを屈曲することにより形成され、側方が開口した収容部を有する包装ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、化粧品等の商品は、販売時におけるディスプレイ性を考慮して、透明のプラスチックシートから形成された包装ケース内に収容されている。この種の包装ケースは、縦長のシートを上下方向に屈曲することにより、前後壁、天壁及び底壁からなるスリーブ状の収容部が形成され、該収容部の両側面全体が開口してなるものである。

【0003】そして、商品を開口から挿入すると、天壁と底壁との間に商品が上下に挟み込まれて保持される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このように、上記従来の包装ケースでは、収容部の上下内寸と商品の高さ寸法との関係が商品保持の観点で重要となるが、実際には、商品に寸法バラツキがあるため、商品が小さい場合には、収容後に商品が開口から抜け落ちるという不具合が生じた。

【0005】かかる問題は、この包装ケースの構造に大きく関係する。即ち、収容部がスリーブ状に形成されて両側面全体が開口しているため、その開口には、商品の落下を防止し得る突っ張りがない。それゆえに、寸法バラツキが生じた場合には、商品の落下を防止し得るすべがないのである。

【0006】本発明は、上記従来の問題点に鑑みてなされたもので、収容部の開口部分から被包装物が抜け落ちることを防止することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を解決すべくなされたものであり、本発明に係る包装ケースは、被包装物Aが収容可能な収容部3を備え、該収容部3の側方が開口してなる包装ケースにおいて、前記収容

部3内には、被包装物Aを反対側の内面に押圧して保持すべく、クッション材2が設けられてなることを特徴とする。

【0008】本発明に係る包装ケースに被包装物Aを収容すると、クッション材2が被包装物Aを反対側の内面に向かって押圧する。この押圧力により、被包装物Aはクッション材2と反対側の内面との間に挟み込まれて保持される。その際、クッション材2のクッション性によって被包装物Aの寸法バラツキを吸収することができる。従って、被包装物Aに寸法バラツキがあっても、確実に被包装物Aを保持することができる。

【0009】特に、請求項2記載の如く、クッション材2に被包装物Aと係合する係合部12を形成することにより、被包装物Aの位置決めができるので、被包装物Aとクッション材2との相対位置ずれを防止でき、しかも、係合手段10, 11を介してクッション材2を収容部3に係合させることにより、クッション材2と収容部3との位置関係も固定できるので、より一層確実に被包装物Aを保持することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の包装ケースの一実施形態について図1乃至図3を参照しつつ説明する。本実施形態における包装ケースは、一枚の帯状の透明なプラスチックシートから形成されたケース本体1と、クッション性を有するクッション材2とからなる。尚、プラスチックシートとしては、例えば、厚さ0.2mm乃至0.1mm程度のポリエステルやポリプロピレン、ポリ塩化ビニル製のシートが使用できる。

【0011】前記ケース本体1は、被包装物Aが収容可能な収容部3を備え、該収容部3は前後壁4, 5と天壁6と底壁7とから構成されてなる。該ケース本体1は、幅方向に形成された折曲野線に沿って上記シートを上下方向に屈曲し、重ね合わせ部8を接着することにより形成され、また左右両側面全体が開口したスリーブ状の収容部3が形成される。

【0012】そして、該収容部3の底壁7の内面側に前記クッション材2が設けられてなる。該クッション材2は、プラスチックシートから成形により形成されてなり、上方に突出する凸部9が設けられてなる。そして、シートの撓みを利用することで凸部9が上下に変位可能で、また、この変位によって弾性復元力が生じ、これによりクッション性を持たせたものである。尚、クッション材2のシートは、ケース本体1のそれよりも薄いものを用いている。

【0013】更に、このクッション材2の前後端部には、係合片10, 10が外側に向けて延設されてなり、両係合片10, 10は、それぞれ前後壁4, 5の切り込み11, 11に差し込まれており、これにより、クッション材2がケース本体1に係合してなる。

【0014】また、前記凸部9には、被包装物Aに係合

する係合凹部12（係合部）が形成されてなり、該係合凹部12の底面13が被包装物Aに当接し、該底面13と前記天壁6の内面6aとによって被包装物Aを上下方向に挟み込んで保持できるように構成されてなる。具体的には、係合凹部12の底面13と天壁6の内面6aとの間の離間寸法が、被包装物Aの高さ寸法よりも若干小さく設定されている。

【0015】上記構成からなる包装ケースは、被包装物Aにシートを巻き付けるか、あるいは、被包装物Aを収容部3の一方側の開口から内部に挿入して収容する。この際、クッション材2のクッション性により容易に挿入できる。しかも、係合凹部12の底面13と天壁6の内面6aとの間の離間寸法が被包装物Aの高さ寸法よりも小さめに設定されているので、被包装物Aが収容されるとクッション材2の凸部9が下方側に変位すると共に、被包装物Aを対向面、即ち天壁6の内面6aに向かって押圧する。従って、被包装物Aは、クッション材2と天壁6とによって上下方向に挟み込まれて保持される。尚、図3において、実線はクッション材2の変形状態を示し、二点破線は変形前の状態を示している。

【0016】また、被包装物Aの高さ寸法にバラツキが生じても、クッション材2の凸部9が上下に自在に変位することで、その寸法バラツキが吸収される。このように、被包装物Aと底壁7との間にクッション材2を介在させることにより、被包装物Aに寸法バラツキが生じても開口から抜け落ちることなく確実に保持できるのである。

【0017】しかも、クッション材2の係合凹部12によって被包装物Aの位置決めを行うことができるので、上下方向のみならず、被包装物Aとクッション材2との水平方向の相対位置ずれをも防止でき、安定性をより一層高めることができる。また、係合片10と切り込み11とにより、クッション材2と収容部3との位置関係も決まるので、被包装物Aとクッション材2とケース本体1とが一体化されて、より一層確実に被包装物Aを保持することができる。

【0018】このように、本実施形態では、収容部3がスリーブ状に形成され、両側面全体が開口して突っ張りとなる部分が側方に設けられていないので、クッション材2による落下防止効果のメリットが特に大きい。

【0019】尚、クッション材2とケース本体1とを一枚のシートから一体的に形成することも可能であるが、上記の如く別体とすることにより、ケース本体1とクッション材2とを異なる厚み、材質のシートから形成することができるので、ケース本体1の強度とクッション材2のクッション性とを容易に両立させることができる。

【0020】また、本実施形態では、クッション材2の係合片10と収容部3の切り込み11とから係合手段を

構成し、該係合手段を介してクッション材2を収容部3に係合させているが、係合手段はこれに限定されず、例えば、クッション材2若しくは収容部3の何れか一方に係合突起を形成し、該係合突起を他方に係合させることも可能である。また、クッション材2を前後壁4、5間に嵌入させてもよい。更に、係合手段を設けずに、クッション材2を接着手段によって収容部3内に固定してもよい。何れにしても、クッション材2を収容部3に一体化することにより、クッション材2のふらつきを防止できる結果、被包装物Aをより一層安定させることができる。

【0021】また、上記実施形態では、クッション材2を底壁7側に設けてなるが、天壁6側に設けてもよい。更に、例えば、クッション材2を前壁4や後壁5の内面側に設けて被包装物Aを前後方向（水平方向）に保持するよう構成してもよい。尚、クッション材2を天壁6と底壁7の両方、あるいは前後壁6、7両方に設けて、両クッション材2、2にて被包装物Aを挟み込んで保持しても本発明の意図する範囲内である。

【0022】更に、上記実施形態では、収容部3の左右両側面が開口してなるものについて説明してなるが、片方の側面が開口したものであってもよい。何れにしても、被包装物3が通りうる開口部分が側方に設けられている収容部3にクッション材2を設け、該クッション材2が被包装物Aを反対側の内面に向かって押圧するよう構成することにより、その開口部分からの被包装物Aの抜け落ちを確実に防止できるのである。

【0023】尚、クッション材2は、上述の如きシートから成形されてなるもの以外にも、例えば、紙等を折り曲げて形成したり、発泡材から形成したりしてもよい。

【0024】

【発明の効果】以上のように、側方が開口している収容部を有する包装ケースにおいて、収容部の内面と被包装物との間にクッション材を介在させ、該クッション材で被包装物の寸法バラツキを吸収することにより、被包装物を確実に保持でき、収容部からの抜け落ちを簡易な構成で確実に防止できるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態における包装ケースを示す一部破断線を含む斜視図。

【図2】図1のP-P線断面図。

【図3】同実施形態における包装ケースに被包装物を収容した状態を示す断面図。

【符号の説明】

2…クッション材、3…収容部、10…係合片（係合手段）、11…切り込み（係合手段）、12…係合凹部（係合部）、A…被包装物

